

質問：なぜヨナは、アッシリヤのニネベへ行って預言をせよという神の命令を拒んだのでしょうか？

回答いたします。

1. ヨナ 4：2 にあるように、「私は、あなた（神）が情け深くあわれみ深い神であり、怒るのにおそく、恵み豊かであり、わざわいを思い直されることを知っていたからです。」
2. では、なぜ、ヨナはアッシリヤが滅ぶことを望んだのでしょうか。
 - (1) それは、アモスの預言により、やがて北王国イスラエルはアッシリヤによって攻撃を受け、イスラエルの民はアッシリヤに引いていかれると警告されていたからです。
 - (2) ヨナは、神の命令に逆らって逃げるなら、自分の身にわざわいが及ぶことは覚悟していたと推測されます（1：12）。自分が滅んでも、イスラエル民族を守りたい、そんな思いが彼にはあったのだと思います。パウロも同じようなことを言っています（ロマ 9：1～3）。
 - (3) ヨナの葛藤は、なぜ神の民であるイスラエルを懲らしめるために、神は異邦人のアッシリヤを用いるのか、という思いです。たしかにアモスから警告されたように、イスラエル民族は背教の道をひた走っています。しかし、アッシリヤはイスラエルよりもって悪く凶暴で、偶像崇拜の民です。それなのに、・・・という葛藤です。このような葛藤は、ハバククも同じように抱え、神と対話しました。ハバククの場合は南王国ユダ、そしてユダを滅ぼすために神が選んだ民族はカルデア人（バビロニア）です。
3. なぜ、ヨナはよみがえることができたのでしょうか。よみに下っても、祈れば生き返ることは可能なのでしょうか。
 - (1) ヨナのよみがえりは、ヨナに下った神のことば（1：1～2）との関係があります。もし、ヨナがこのまま使命を果たさずに死んでしまえば、神のことばが地に落ちたこととなります。
 - (2) ただし、神は一方的にヨナをよみがえらせて、使命を果たすよう強制するようなお方ではありません。必ず、信者の側に信仰による応答が求められます。ヨナはよみに下ってから、祈りました。その内容は書かれていませんが、その後の展開を見れば、ヨナが神の使命を果たさせてくださいと祈ったことは明らかです。
 - (3) ヨナがよみの中から神に祈り、「再び預言者としての使命を遂行します」と誓ったから、彼はよみがえらされたのです。1：9「私の誓いを果たしましょう」とは、その意味です。
 - (4) よって、一般的に、だれであっても信者であれば、死後、その人の霊魂がパラダイスに行ってから、祈れば生き返る可能性がある、というようなことを、この箇所から主張することはできません。神のことば、神の栄光と関係があったヨナの場合に起きた出来事です。